幼児と児童の

交 流 記 録

担当者名	(社)愛和会　宮古保育園	伊藤美千代
	田原本町立田原本幼稚園	岡村衣里子
	田原本町立田原本小学校	東浦　圭子

●活動名　**幼稚園で遊ぼう！！**

●日時
平成２４年１１月２１日(水)

●共通のねらい
グループの友達と一緒に、触れ合い遊びをしたりゲームをしたりすることを楽しむ。

●活動のねらい

保育所・幼稚園	小学校
小学生のお兄さんお姉さんに親しみをもち、リードしてもらいながら一緒に活動することを楽しむ。	・幼児と仲良く交流する。 ・園長先生の話を聞いて、幼稚園のことや幼稚園の先生の仕事について知る。

●打合せのポイント
活動内容や進め方について話し合う。
（触れ合い遊び『ひっくりかえしてポン』や競技『台風の目』の中で、２年生がどこまでリードして進めていけるのか。）

●事前指導

保育所
・小学生や一緒に就学する友達とゲーム遊びをすることを伝える。
・ルールを守って楽しめるように伝える。
・挨拶がきちんとできるように伝える。

幼稚園
・競技内容について話し合う。
・小学校や保育園の先生の話をしっかり聞こう。
・ルールを守って楽しく遊ぼう。
・分からないときはお兄さんやお姉さんに教えてもらおう。
・自己紹介しよう。
・お礼を言おう。

小学校
・園長先生への質問を考えさせる。
・遊びの約束を確認する。
・年下の幼児に優しくする気持ちを高める。
・探検や交流の流れを知らせる。

保育所の週の流れ
・おもちゃランドをふり返り一緒に遊ぶことを知る。
・一緒に小学校に行く幼稚園の友達と一緒に遊ぶことを楽しみにする。

幼稚園の週の流れ
・クラスみんなで触れ合い遊び『ひっくりかえしてポン』をする。
・保育園の友達や２年生と一緒にすることを楽しみにする。

小学校生活科指導計画
・めあてを考える。
・質問を考える。
・探検の流れを知る。
・探検･交流をする。
・振り返る。

●交流の計画

時程	幼児への指導等	幼児・児童の活動	児童への指導と評価
9:40 10:30	※自己紹介をまずは教職員がやってみることで、安心して活動を始められるようにする。 ※ひっくりかえるタイミングや動きを知らせながら、触れ合いを楽しめるようにする。 ※実際に見本を見せながら、ルールを説明したり、走る速さを合わせることを知らせたりする。	【遊戯室】 ○挨拶をする。 ○３～４人組になり自己紹介をする。 （園・小学校・名前） ○触れ合い遊び『ひっくりかえしてポン』をする。 ・音楽に合わせて手をつないで回ったりジャンプをしたりして、ポンの音でくるっと回転して裏返しになる。 【運動場】 ○体操をする。『ディズニー体操』 ○競技『台風の目』をする。 ・３～４人組で棒をもち、息を合わせて走りコーンを回る。 ○お礼を言う。 ・握手をして帰りの挨拶をする。 	○同じグループになった幼児に進んで声かけをさせる。 ☆年上として、優しく接することができたか。 ☆園長先生の話を意欲的に聞けたか。

●事後指導

保育所

・幼児の様子を振り返る。
（知っている友達がいたことや、おもちゃランドで遊んでもらったお兄ちゃんお姉ちゃんと過ごせたことを喜んでいた。）
（小学校に行ったら、また一緒に遊べるという気持ちをもち、就学への期待が高まった。）

幼稚園

・クラスで楽しかったことを話し合う。
（知っている保育園の友達がいてうれしかった。）
（前と同じクラスのお兄ちゃんお姉ちゃんだった。）
・来てくれたお礼の手紙を書く。

小学校

・探検･交流を振り返る。
（幼児と楽しく活動できたか。幼児に優しくできたか。）
・園長先生の話を聞いて考えたことや思ったことを出し合う。
・新年度、幼児が入学してくることへの期待感をもたせる。

保育所担当者の感想

３、４人の小さなグループになることで緊張もあったが、深く関わることができよかったと思う。小学生に優しくしてもらった気持ちが強く残り、楽しい時間となっていたように思う。

幼稚園担当者の感想

おもちゃランドと同じクラスとの交流だったので、子どもたちもどんなお兄ちゃんたちが来るか分かっていて楽しみにすることができた。交流の継続性の大切さを改めて感じることができた。

小学校担当者の感想

探検がうれしく、落ち着かない様子だったが、優しく声かけし楽しく交流できていた。年上としての自覚も少し感じることができ来年度につながることを期待する。また園長先生の話から新たな気付きが多く、有意義な活動になった。

８　幼稚園・保育所・小学校が連携して交流活動を進める上での工夫　Ｑ＆Ａ

交流する小学校・幼稚園・保育所はどうやって決めればよいか？
→Ｐ40

交流する対象学年は、何年生、何歳児がよいか？
→Ｐ41

幼稚園・保育所・小学校の交流・連携を継続するための工夫は？
→Ｐ42

交流の形態は、どのようにするのがよいか？
→Ｐ41

幼稚園・保育所との交流を、小学校のどの教科に位置付ければよいか？
→Ｐ42

交流に向けての打合せはどのように行うのがよいか？　→Ｐ42

交流をする小学校・幼稚園・保育所はどうやって決めればよいか？

まず、子どもが移動可能な範囲の近隣の小学校・幼稚園・保育所と連携するのが交流しやすい。

また、幼稚園・保育所の出身者が小学校に多く入学していることが望ましいが、少なくても、

◎　５歳児が小学校の施設・設備を知り、「小学校はこんなところ」だと分かる

◎　小学校の１年生が年少者への思いやりの気持ちをもって学習活動ができる

◎　教職員が、幼稚園・保育所・小学校について互いに理解し合える

といったメリットはある。

主として交流活動を通した連携を行う幼稚園・保育所・小学校は、それぞれ一つずつでもよい。事前打合せや子どもの移動がスムーズにできる。しかしながら、５歳児の保護者は我が子の入学する小学校と交流してほしいという願いが強くあるので、就学前検診以外に５歳児や保護者が小学校を身近に感じる機会を設定する工夫が必要である。本研究では、

○　小学校の運動会に入学対象者を招待する

○　小学校の授業参観に入学対象者のいる幼稚園・保育所の教職員に来てもらうよう呼びかける

○　小学校の管理職が幼稚園・保育所に出向いて５歳児の保護者向けに講演をする

○　入学予定者と保護者に小学校の授業を体験してもらう

等の取組が実施された。

交流をする対象学年は何年生、何歳児がよいか？

初めて交流する場合は、小さい規模での交流から始めるとよい。小学校では、交流がしやすい学年から実施するとよい。小学校に憧れと期待をもたせるという観点では、幼稚園・保育所では交流の対象として５歳児が適当である。本研究では、１年生と５歳児の交流が多かった。小学校の中で最年少の１年生は「お世話をされる」立場になりがちである。しかし、幼児と交流をすることによって「年長者として思いやりをもって接する」「相手に伝わるように工夫する」といった力を付けることをねらいとした交流（授業）を構成することができたという報告があり、「１年生の成長を感じた、たくましさを感じた」等の感想もあった。また、交流によって幼児が小学校に来校している姿を見かけることで、交流をしていない学年の児童も直接交流に関わっていない教職員も、幼児に次第に慣れてきて、幼児に声をかけたり、幼稚園・保育所の先生に挨拶をしたりする姿が見られたという報告があった。

交流が進み、幼児と小学生の関わりや教職員のつながりができてくると、小学校の各学年の年間指導計画を立てるときに、どの学年のどの教科等で幼稚園・保育所と交流ができるかという観点から計画を立てることができるようになる。本研究では、

- ○　小学校内にある柿山で柿を収穫しており、今までは収穫した柿を保育所に持って行っていたが、保育所児に柿の収穫をさせる交流を検討し、次年度に６年生と１年生になるという関係を考えて、５年生に収穫の手助けをさせた
- ○　元々幼稚園児と５年生が稲作体験を一緒に行う取組をしていたが、それに保育所児も一緒に参加できると考え、計画を立てている
- ○　幼稚園と５年生の「焼きいもパーティー」交流に１年生も加わった
- ○　２年生の生活科「おもちゃランド」に、１年生と幼稚園・保育所の５歳児を招待する

等の取組が実施された。

交流の形態は、どのようにするのがよいか？

本研究で取り組まれた交流では、

- ○　１クラス同士の交流活動
- ○　各校・園・所から２～３人（合計７～ 10 人）を１グループとするグループ活動
- ○　ペア、トリオでの活動

での交流形態があった。実際、５歳児と１年生の交流では、

- ○　グループを決めないで一緒に遊ぶ交流から始め、子どもが慣れてきたらグループに分かれて一緒に遊んだり、１年生が遊びの説明をしてから（年長者としての自覚をもって行動する）一緒に遊んだりする交流へと、段階を追って交流を深めていった取組
- ○　第１回目の交流から縦割りグループ活動にして、１年間を通してグループを変えずに交流を深めていった取組

の両方が実施されたが、どちらの取組も効果的であったことが報告された。

交流の内容にもよるが、１回目の交流は互いにぎこちなくてもグループ同士の人数が少ない交流で回数を重ねると互いに顔見知りになって名前も覚えられるようになり、子どものつながりが深まっていくことが分かった。

交流に向けての打合せは、どのように行うのがよいか？

担当者の打合せは、もちろん綿密であればあるほどよいが、１回は顔を合わせて打合せをし、細かい点については電話やＦＡＸでの連絡で対応できる。単学級同士であれば担任同士の打合せでよいし、複数学級がある学年単位で取り組む場合は小学校の学年主任と幼稚園の主任の打合せでよい。しかし、複数学級がある学年単位で取り組む場合、交流する子どもの人数が多く、広い場所が必要になり、移動にも時間がかかる。そのような場合はそれぞれのクラス単位で交流する方法もある。主任同士の打合せで大枠を決め、クラス担任同士で詳細を決めていくようにすれば、負担が軽減され、教職員同士の交流も深まる。

本研究では、担任同士で打合せをしたところと、主任同士で打合せをしたところがあった。担任同士で打合せをしたところは、

○　お互いの年齢が近かったため、担任同士のつながりがとても強くなり、そのことが子ども同士の交流の内容の深まりにつながった

○　交流を通して小学校のベテラン教員の考えや指導にふれ、幼稚園・保育所の教職員が小学校就学に向けた保育について積極的に考え実践するようになった

等の効果が報告された。また、学年主任同士で打合せをしたところからは、

○　主任同士で打合せをしてから各校・園・所に持ち帰り学年会等で周知したが、学年会等で新たに課題が見つかると打合せをし直さなければならず、主担当となった幼稚園の主任が小学校と保育所の両方に電話で伝えるなど負担が大きかった

という報告があった。学年単位で動くのは小回りがきかず、打合せの時間をとれないことが多いので（幼・保・小で教職員の忙しい時間帯が異なり、時間を合わせることが困難）、交流する学級ごとの担任同士で打合せをした方がよいという意見も出された。

幼稚園・保育所との交流を、小学校のどの教科に位置付ければよいか？

小学校低学年であれば、生活科が中心となる。交流の内容、ねらいによって図工（造形遊び）や体育（運動遊び）等に位置付けることも可能である。学校全体の年間指導計画の中に幼稚園・保育所との交流を組み入れ、学年・教科等への位置付けを同時に考えていくとよい。

幼稚園・保育所・小学校の交流・連携を継続するための工夫は？

交流については、幼稚園や保育所と以前から実施している場合はそれをベースに無理のない年間計画を立てるとよい。新たに交流を実施する場合は、学期に１～２回のペースで年間計画を立てる。

子ども同士の交流を通して、教職員が交流をすることも交流・連携の目的の一つであるので、事前打合せや事後の振り返りを大切にしたい。電話、ＦＡＸ、メールでのやりとりもよいが、実際に顔を合わせての打合せの時間をとりたい。

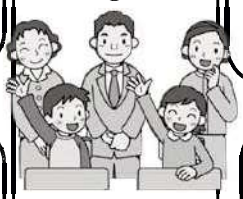
年度内に次年度の交流についての年間計画を立てておくことが望ましい。そのときに、幼稚園・保育所・小学校で「小学校入学時に子どもに付けていてほしい力」を話し合い、共通理解しておくと、次年度の年間計画が立てやすくなり、幼稚園・保育所でのアプローチカリキュラム、小学校でのスタートカリキュラムの作成がしやすくなる。これらのカリキュラムは５歳児の状況に合わせて毎年見直しを図る必要がある。見直しのポイントは、子ども同士の交流、教職員間の交流を通して見えてくる。

９　スタートカリキュラムの作成について

奈良県の接続プログラムでは、交流の充実が、地域、学校・園・所の特色に合った幼稚園・保育所のアプローチカリキュラム、小学校のスタートカリキュラムの作成につながると考えている。ここでは、特に小学校のスタートカリキュラムの作成について述べる。

次の表は、今回の調査・研究における「交流からスタートカリキュラム作成までの流れ」である。

	教職員同士の交流		子ども同士の交流
1学期	子どもの現状を把握する ・日常の生活や指導の違いに気付く。 ・保・幼・小の協力関係を築く。 例）情報交換会、授業参観、保育参観	ステップ1	興味・関心をもたせる ・これからの交流への期待感がもてるようにする。 ・あまり準備を必要としない、やりやすい取組から行う。 例）アサガオの種まき シャボン玉遊び
2学期	子どもの育ちを確認する ・教育内容や指導方法を理解し合い、互いのよさを実感する。 ・幼児理解、児童理解を深めていく。 例）保育参観、授業参観、合同研修会	ステップ2	愛着や親しみを深める ・繰り返し交流する中で、お互いに愛着や親しみが感じられる交流内容にしていく。 例）おもちゃランド 柿とりをしよう
3学期	子どもの育ちを生かす展開を考える ・幼児の育ちを確かめ、現状を共有する。 ・保育所や幼稚園での育ちを入学直後の指導にどう生かすのか検討する。 例）授業参観、情報交換	ステップ3 アプローチカリキュラムの実施	自覚を促し期待感を高める ・幼児には、小学校の生活や学習に憧れをもたせる。 ・児童には、自身の成長を振り返らせ、年長者の自覚を促す。 例）小学校の授業見学 小学校の体験入学



スタートカリキュラムの作成へ

今回のパイロット校・園・所の取組では、子ども同士の交流、教職員の交流とも各学期に１～２回程度行ったが、交流を重ねるにつれて、小学校低学年と５歳児との交流が、次第に学校全体の取組へと広がっていった学校もあった。小学校を訪れる幼児を見て、「来年度、この子どもたちを小学校でどう受け入れるのがよいか」を小学校全体で考えるようになったという管理職の声もあった。

パイロット校では、スタートカリキュラムを検討するにあたり、交流している幼稚園・保育所での生活や学びを念頭に置きながら、従来から実施してきた新入生の入学当初の指導内容の整理を行った。入学当初の指導内容を、学習・生活・なかまづくりの観点から「接続期学習」としてまとめなおしたり、複数の教科等の内容でテーマ学習を設定したりして、スタートカリキュラムを構成した。

スタートカリキュラムについて

スタートカリキュラムとは、小学校に入学した児童が、学校生活への適応が図られるように作成された小学校入学当初のカリキュラムのことである。

そこでは、幼児期の教育と小学校教育との接続の観点から、合科的な指導や他教科等との関連を図る指導、幼児と触れ合う交流活動などが重視されている。

カリキュラム作成に当たっては、幼児が生活面や学びの面でどのような経験があるのかを踏まえ、生活面や学習面へのつながりに留意したい。

合科的な指導

単元又は1コマの時間の中で複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する指導。

他教科等との関連を図る指導

○生活科での具体的な活動や体験を、国語や図画工作などの表現活動の動機付けや題材にするような、生活科の学習を他の教科で生かす指導。

○国語科で身に付けた話すこと、書くことなどの力を生活科で伝え合う活動に生かしていくような、他教科の学習を生かす指導。

○　スタートカリキュラム編成における主な留意点

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」(※)には、スタートカリキュラム編成における主な留意点として、以下の５点が挙げられている。

① 幼稚園、保育所、認定こども園と連携協力すること
（相互に連携協力し、子どもの実態や指導の在り方などについて理解を深めるとともに、幼児期の生活や教育の成果を積極的に生かして編成すること。）

② 個々の児童に対応した取組であること
（児童一人一人の発達や学びの個人差があることから、児童一人一人の幼児期の教育や経験を見通したきめ細かい指導が求められる。）

③ 学校全体での取組とすること
（学年における合同授業や異学年の児童との交流活動を行う場合も想定されることから、その意義等について学校全体で共有することが必要である。）

④ 保護者への適切な説明を行うこと
（児童の円滑な小学校生活への適応を図る上で、保護者による児童への支援が重要であり、スタートカリキュラムの意義や具体的な指導について保護者に適切に説明することが求められる。）

⑤ 授業時間や学習空間などの環境構成、人間関係づくりなどについて工夫すること
（45分の授業時間にとらわれず、例えば、20分や15分程度のモジュールで時間割を構成したりすることも考えられる。）

※ 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」(2010.11　幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議)による

スタートカリキュラムは、各地域や小学校の状況、入学児童の異なる実態を踏まえ、どのような期間にどのような方法で行うべきかは、それぞれの学校が判断し、適切に実施されるべきもので、多様なものである。各学校の実態に合った適切なカリキュラムを作成し、実施していくことが大切である。

○　スタートカリキュラムの例

右のページは、パイロット校が作成したスタートカリキュラムである。各教科等のカリキュラムを基に、活動面、内容面等から教科等の関連や合科を考えるとともに、時間数にも配慮して構成している。上段に、接続期学習やテーマ学習で教科等を関連させたり合科的に扱ったりする単元編成を示しており、下段に各教科等で学習する単元名を記載している。下段の〔　〕内は、上段の接続期学習やテーマ学習に移動した学習内容や時間数を表している。

小学校第1学年1学期のスタートカリキュラム（案）

五條市立北宇智小学校

1年生1学期の総時数（296h）　　新1年生総時数＝スタートカリキュラム時数94h(接続期学習時数35h＋テーマ学習時数59h)＋従来のカリキュラム時数202h

	項　目		時数	4　月	5　月	6　月	7　月
スタートカリキュラム 94h	目　標			1．自分がしたいと思うことに取り組むことができる。 2．友達の話や気付きに関心をもつことができる。 3．一つ一つの行動にけじめをつけることができる。	1．教科学習等への学びに興味関心をもち、自ら考え、行動することができる。 2．友達とのトラブルを話し合って解決していく等、仲間意識をもつことができる。 3．学校生活や学習のルールを守ることができる。		
	接続期学習 35h	接続Ⅰ（学習） 16h	国 12 算 4	A:お話玉手箱（11回　1回15分） B:しっかり書こう「あいうえお」（25回　1回15分） C:1、2のさんすう！（12回　1回15分）			
		接続Ⅱ（生活） 10h	学 6+4	1安全な登下校　4たのしい給食　6そうじのしかた 2トイレの使い方　5ともだちいっぱい　7図書館の使い方 3わたしたちのきまり　（あそびのきまり）	8交通事故に気をつけよう　9あんぜんな避難	10生活リズム（早寝早起き朝ご飯）	
		接続Ⅲ（仲間） 9h	体 4+1 音 2+2	1あいさつをしよう　3体ほぐし　5おにごっこ 2校歌を歌おう　4遊具めぐり　6リズム遊び	7声を出して遊ぼう 8体ほぐし	9遊具めぐり	
	テーマ学習 59h	生活科を核にした総合的な学習 教科の関連を組み入れた合科的な学習	生 27 国 22 図 8 道 2	**テーマ学習1　友だち大好き　学校大好き　30h**（生活 15h　国語 11h　図工 4h） 学校探検Ⅰ 5h：1学校巡り体験（2年生と） → 学校探検Ⅱ 5h：2お気に入りの人・場所探検 → 学校探検Ⅲ 5h：3学校のまわり探検 国語「ほんはともだち」 6h：1 図書館で絵本に出会う。2 読み聞かせを楽しむ。3 楽しく本を読む。 図工「せんせいあのね」 4h：1 すきな場所をさがす。2 絵に描いて友だちに紹介する。 国語「みんなにつたえよう」 5h：1 学校の気に入った場所・人・モノ又は遊びなど絵や言葉で書く。2 友達と伝え合う。 **テーマ学習2　聴こう、話そう　9h**（国語 7h　道徳 2h） はきはきあいさつ 2h → めざせ、聴き方名人 2h → こえのゆうびんやさん 3h → めざせ、おたずね名人 2h ※ 付けた力を、朝の読書タイム、朝の会を活用したスピーチ、読み聞かせ、学級活動での話合い、生活科の発表などに活用していく。			**テーマ学習3　夏を楽しもう　20h**（生活 12h　国語 4h　図工 4h） 課題 夏の遊びを楽しむと共に、夏を楽しむ祭りを行う。 どろんこわあい 4h ↓ あつくなってきたよ 3h こんなことしたよ 4h ↓ なつまつりをしよう 7h ほいくしょのお友だちといっしょにあそぼう 2h
従来のカリキュラム 202h	学校行事		18	新任式　始業式　入学式　分団会　身体測定　創立記念式　家庭訪問　遠足	避難訓練　内科検診　歯科検診　分団会　終業式		
	児童会活動		4	1年生を迎える集会　ハッピータイム	なかよし集会	平和集会	
	学級活動		5 〔6〕	〔1．たのしい学校給食〕　〔2．ともだちいっぱい〕 〔3．わたしたちのきまり〕　〔4．安全な登下校〕	5．学校の誕生日　〔6．安全な避難〕	8．安全な水遊び　9．きれいな歯　〔7．図書館の使い方〕	10．たのしかった1学期　11．夏休みのくらし 平和集会
	国語（書写）		59 〔34〕	みつけたよ 4h　〔ほんがたくさん 3h〕　〔じをかこう 3h〕 〔はきはきあいさつ 2h〕　ふたとぶた 3h　ねことねっこ 3h 〔書写 1h〕	あいうえおのうた 5h　あめですよ 4h　ことばあそび 3h 〔書写 2h〕	〔みんなにつたえよう 3h〕　あひるのあくび 4h　ぶんをつくろう 3h　おばさんとおばあさん 3h　「はへを」をつかって 3h 〔書写 2h〕	かいがら 5h　〔こえのゆうびんやさん 3h〕　〔よんでねきいてね 4h〕　どうやってみをまもるのかな 6h　いしゃといしや 3h 〔こんなことしたよ 4h〕　おおきなかぶ 6h　ほんはともだち 3h　えにっきをかこう 4h 〔書写 4h〕
	算数		38 〔4〕	〔ともだち 4h〕　10までのかず 9h	なんばんめ 2h　かずをみつけよう 1h	いくつといくつ 6h　あわせていくつ　ふえるといくつ 9h	のこりはいくつ　ちがいはいくつ 9h　かずをせいりしよう 2h
	生活		6 〔27〕	〔いちねんせいになったよ 全15h　がっこうのいちにち 2h　ともだちつくろう 2h　がっこうたんけん 9h　がっこうのまわり 2h〕	ぐんぐんのびろ 6h	〔さあみんなでかけよう 8h　なにをしてあそぼうかな〕	〔なつがきたよ 4h　あつくなってきたよ　たのしいなつやすみ〕
	音楽		20 〔2〕	〔校歌を歌おう 2h〕	うたでなかよしになろう 7h　はくをかんじとろう 3h	はくにのってリズムをうとう 10h	
	図工		10 〔12〕	〔せんせいあのね 8h〕	つんだりならべたり 4h	〔どろんこわあい 4h〕　しんぶんしであそぼう 2h	あのかたちにみえるよ 4h
	体育		29 〔4〕	〔なかよくあそぼう 4h　おにごっこ　体ほぐし〕	力いっぱいあそぼう 7h　かけっこ・鉄棒あそび	マット・跳び箱あそび 11h	水あそび 11h
	道徳		9 〔2〕	1ねんせいになったよ　〔あいさつ〕　かえりみち	〔べんきょうがはじまりますよ〕　うさぎのえんそく	がっこうたんけんで　あっあぶない	ぼくのあさがお　どきどきどっきんぐ　うかんだうかんだ　こころはっぱ
	その他（外国語活動）		4	フルーツ　カウント	アニマル	カラー	

※ 表中〔　〕内は、接続期学習やテーマ学習に移動させた内容と時間数です。

スタートカリキュラムを踏まえた日程表の一例（北宇智小学校）

第2週　　4月15日（月）～4月19日（金）

＜ねらい＞学校で友だちと過ごすことやみんなといっしょに活動することに関心をもち、みんなで楽しく遊んだり、学習に取り組んだりするようになる。

	15（げつ）	16（か）	17（すい）	18（もく）	19（きん）
朝	全校朝会 健康観察	健康観察 スピーチ （私のすきな・・）	健康観察 スピーチ （私のすきな・・）	健康観察 スピーチ （私のすきな・・）	健康観察 スピーチ （私のすきな・・）
1	国語 スピーチの仕方 発表の仕方	国語 学校探検 図書室はどこ？ 読み聞かせ	国語 『みつけたよ』の話し合い 鉛筆の持ち方 ひらがな　し・つ	国語 字を書くときの姿勢 線なぞり ひらがな　く	国語 口の体操 ひらがな　こ・い
2	算数 1対1対応	体育 並び方 体操の約束 座り方・聞き方	行事 聴力検査 視力検査	算数 どちらが多いか比べる	国語 図書室で本を探そう
3	行事 学校探検 廊下の歩き方 保健室の約束 身体測定	図工 ともだち	体育 おにごっこ 学校探検 遊具探検	生活 学校探検 学校へ来るとき	生活 学校探検 2年生が案内してくれるよ
4	学活 給食指導 準備と片づけ 楽しく食事	図工 ともだち	国語 たのしいノートに絵を描く ひらがな	体育 学校探検 おにごっこ 鉄棒	生活 学校探検 2年生にお礼をしよう
特記事項	☆給食袋 ☆ランタス入 ☆ボー加 ☆健康調査票 ☆依頼文 ☆給食費振 ☆月曜ロセ ☆セット座振替 同意書	☆配布☆健康の記録（黄色カード）	☆紙☆配布☆尿検査☆分団下校（まとめて帰りますと）☆尿検査回収☆ぎょう虫検査用☆生活科（生活科の時間に）	☆ぎょう虫検査のお知らせ（ぎょう虫検査日にもってきます。朝のうんこ）	☆さんすうセット（☆名前を書いて）☆ぎょう虫検査（2回目）（ぎょう虫検査日）
下校	13:20	13:20	分団13:45	13:20	13:20

【○環境の構成、☆支援、※準備資料等】
○給食の準備・片付けは6年生がしてくれる。
☆全校朝会時の並び方、体育館への入り方を確認する。
☆連絡帳の点検とコメントをていねいに。
☆尿検査・ぎょう虫検査などの点検を確実に。
☆初めての分団下校、上級生に迎えに来てもらえることを連絡。
☆保健室での検査が続くので、保健室の入室・退出の仕方、お礼を言うなどの約束を確認する。
☆廊下の歩き方についても約束する。
☆宿題のやり方や提出の仕方をわかるように説明する。

国語	7
算数	2
生活	3
音楽	
図工	2
体育	3
道徳	
学活	1
行事	2
児童会	
合計	20

＜幼児期の経験を生かす＞
話を聞く力の育成や友達づくりを主な目的にした「テーマ学習２」を行う。朝の挨拶、スピーチ、読み聞かせ、ペアでのゲーム、脱力タイムなどとともに、保育所で親しんだお話や歌も取り入れ、短時間でできる様々な活動を行う。

＜時間割上の工夫＞
スピーチ、音読、文字学習など、１５分ごとのモジュールで活動を組み合わせて学習意欲がとぎれないようにする。

＜時間割上の工夫＞
生活科を中心に合科的な指導等を行う「テーマ学習１」を３、４時間目に位置付け、教科学習への意欲を更に高めていく。

＜生活面への配慮＞
「テーマ学習１」として学校探検に重点をおき、学校のきまりや施設の使い方、友達との出会いなど、新しい環境に徐々に慣れさせていく。

＜人間関係の構築＞
友達と手をつないだり、集団になったりするゲームを行う。交流での様子を参考にし、実態に合ったメニューを組む。

スタートカリキュラム作成のステップ

1　子どもの実態の把握

○幼稚園、保育所との連携協力を図る。（やりやすいところから、まず始める）
○子ども同士の交流、教職員同士の交流を重ねる。
○交流の中で気付いたことなど、子どもの発達や学びに関する情報を意見交換し、共有していく。

2　目指す子ども像の具体化

○児童一人一人の発達や学びの個人差を踏まえ、子どもに身に付いている力、身に付け切れていない力を見極めていく。
○目指す子ども像を具体化していく。

3　スタートカリキュラムの検討（単元構想等）

○生活科を核とした合科的な指導、教科等の関連を考えて単元を構想する。
○体験的な活動を取り入れる。
○子どもの幼児期における経験を生かすような内容を取り入れる。
○学校全体での取組を構想する。
（学年による合同授業、異学年児童との交流活動、専科教員や養護教諭とのティームティーチングなど）
○連携をしている幼稚園、保育所のアプローチカリキュラムとのつながりを大切にする。　など

4　スタートカリキュラムを踏まえた日程表の作成

○１週間ごとのねらいを決める。
○生活科の学習活動を中核にし、児童が自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進められるようにする。
○４５分の授業時間にとらわれず、１５分程度のモジュールで時間割を構成し、徐々に４５分の授業に慣れるようにする。

5　スタートカリキュラムの実施